

よみがえる文化財

美術品修復の現場から

□■1

くぐり抜ける方法を
「thinning b
ack」(積層的振り返
り)しようと思っています。

まどっていると思いま
す。打つ手はあるのでし
ょうか。

こうした時、歴史とか
文化という長いスパンで
物事を考えて対応するこ
とがどうしても必要だと
思います。そうした状況
下で私たちは伝統文化と
近代科学を融合させて新
しいものの考え方や技術
を創り出そうとしている
のです。

一般的に研究状態の中
では大切なのが見えにく
くなります。こうした状況
では敵前突破しようとす
れば、さらに最先端の
新しいものにすがろうと
する傾向が人間にはあり
ます。私たちはこれまで
の英知を再結集し、さら
に新しい発想と必要な技
術を使ってうまくいきま
す。

吉備国際大の事業
の中ではまさにこう
した時代状況の中で、新
しい時代と価値創造のた
めにすべきことを見つ

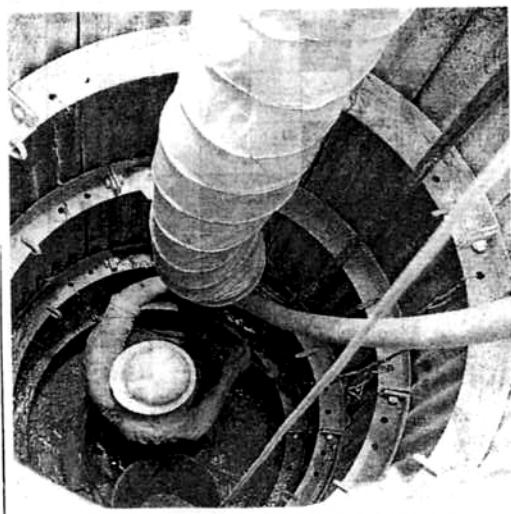


吉備国際大教授
白井洋輔氏

時代切り開く『鍵』探ろう

学術フロンティア推進事業

文部科学省は学術面に
おいて時代の変化に対応
せながら高度化を進め
る方向を打ち出しています。
その一つが「私立大
学学术研究高度化推進事
業」です。その中で学術
備団体がそれに採択さ
れた平成15年度には全国
で21大学が選ばされました
が、文化財の分野では本
まどっていると思いま
す。打つ手はあるのでし
ょうか。



吉備国際大の文化財総合研究センターの基礎工事。
学術フロンティア事業は、ここからスタートした

大学が初めてのこともあります。大学が初めてのこともあります。期待が集まりました。連載をスタートするにあたって、新しく建設された「文化財総合研究センター」を拠点にして、私はいつも何を目指しているのかを明らかにしたいと思います。元来人間は不安と希望に満ちあふれた文化的な物です。しかも現代は、「激動の時代」といわれ、その振幅が次第に大きくなっていることは誰も感じていると思いま

ていることも、誰もがりたることで、誰もがりたこと

す。地球の裏側で起こっ

て、大変大きな反響と期待が集まりました。連載をスタートするにあたって、新しく建設された「文化財総合研究センター」を拠点にして、私はいつも何を目指しているのかを明らかにしたいと思います。

吉備国際大の文化財総合研究センターの基礎工事。
学術フロンティア事業は、ここからスタートした

ていることです。吉備国際大の文化財総合研究センターの基礎工事。
吉備国際大の文化財総合研究センターの基礎工事。
吉備国際大の文化財総合研究センターの基礎工事。



復元された国宝高麗冠鎧(あかがわどじゆり)。文化財には信じられない
ほどの時代の熱氣や技術情報を詰まっている(高梁市立歴史美術館蔵)

トなのでした。これから原則として毎回土曜・文化財総合研究の見学。「美術作品は私

の見学」、美術品修復の現場から」がスタートしました。これから約30回、毎週土曜日に掲載する予定です。

タイトルにある「よみがえる文化財」について説明します。私はこの連載では、

皆さんを未知の世界へ

ちが美術館や博物館で、同学科の6人の先生に鑑賞する絵画や仏像などは、年月の経過の中で劣化したり、思わず傷みを抱えているケー

スが多いのです。そこには、年月の経過の中でも劣化したり、思わず傷みを抱えているケー

スが多いのです。そこで、傷みを抱えているケー

スが多いのです。そこで、傷みを抱えているケー